

「生産指標額」の計算方法について

「生産指標額」について

「生産指標額」は各工種ごとに算出しています。
 各社の生産指標(売上原価と販売費及び一般管理費を合算したもの)に占める、工事およびその各工種の割合を算出したものを「生産指標額」として、受注額減点の分母「生産指標額×k1」算出に使用しています。

1. 直近3営業年度の生産指標(売上原価、販売費及び一般管理費を合算したもの)に占める工事の割合(3年平均)を算出します。

(1) 直前期の生産指標(A)を算出します。(売上原価、販売費及び一般管理費を合算します。)

$$A(\text{直前期}) = \text{③} + \text{④} + \text{⑤}$$

生産指標 (千円)	営業年度	売上高		販売費及び 一般管理費	売上原価	
		完成工事高	兼業事業売上高		完成工事原価	兼業事業売上原価
	直前	①	②	③	④	⑤
	直前の前年					
	直前の前々年					

③+④+⑤=A(生産指標)

(2) 直前期の総売上(兼業含む)に対する工事の割合(B)を算出します。

$$B(\text{直前期}) = \text{①} / (\text{①} + \text{②})$$

生産指標 (千円)	営業年度	売上高		販売費及び 一般管理費	売上原価	
		完成工事高	兼業事業売上高		完成工事原価	兼業事業売上原価
	直前	①	②	③	④	⑤
	直前の前年					
	直前の前々年					

① / (①+②) = B(総売上に対する完成工事高の割合)

(3) 生産指標(A)に占める工事の生産指標(C)を算出します。((1)で算出した生産指標に(2)で算出した工事割合を乗じます。)

$$C(\text{直前期}) = A \times B$$

生産指標 (千円)	営業年度	売上高		販売費及び 一般管理費	売上原価	
		完成工事高	兼業事業売上高		完成工事原価	兼業事業売上原価
	直前	① / ①+②		③+④+⑤		= C(工事にかかる生産指標)
	直前の前年					
	直前の前々年					

(4) 「直前の前年」、「直前の前々年」についても、(1)～(3)の手順で同様に計算します。

販売費及び 一般管理費	売上原価	
	完成工事原価	兼業事業売上原価
		= C(工事にかかる生産指標)
直前の前年		= C(工事にかかる生産指標)
直前の前々年		= C(工事にかかる生産指標)

(5)各営業年度生産指標を合算し、3年平均した工事にかかる生産指標(D)を算出します。
 $\{C(\text{直前})+C(\text{直前の前年})+C(\text{直前の前々年})\} \div 3 = D$

転換及び 取替管理費	売上原価		
	完成工事原価	兼業事業売上原価	
			= C(工事にかかる生産指標)
			+ C(工事にかかる生産指標)
			+ C(工事にかかる生産指標)
			÷ 3 = D(3年平均生産指標)

2. 完成工事高に対する各工種完工高の割合を算出します。

(例)「土木一般」工事と「建築一般」工事の生産指標額を算出する場合、それぞれの工種の工事の全体に占める割合を算出します。

- ・「土木一般」工事の割合 $P = \text{⑥} / \text{⑧}$
- ・「建築一般」工事の割合 $Q = \text{⑦} / \text{⑧}$

入札参加資格 希望票 (県内業者用)

大区分	中区分	小区分	経費申請	希望額	完成工事高 (千円)			
					直前期	直前の前年	直前の前々年	平均
土木一式工事	一般	-						⑥
	アスファルト・コンクリート	-						
	港湾	-						
建築一式工事	一般	-						⑦
	解体	-						
その他工事	-	-						
合計								⑧

3. 3年平均生産指標(=D)に各工種割合(=P又はQ)を乗じ、各工種ごとの「生産指標額」を算出します。

・工種:「土木一般」工事の「生産指標額」=D×P

$$D(\text{3年平均生産指標}) \times P(\text{土木一般の割合 } \text{⑥} / \text{⑧}) = \text{土木一般「生産指標額」}$$

・工種:「建築一般」工事の「生産指標額」=D×Q

$$D(\text{3年平均生産指標}) \times Q(\text{建築一般の割合 } \text{⑦} / \text{⑧}) = \text{建築一般「生産指標額」}$$

受注額減点の分母
「生産指標額×k1」
算出に使用します。